

---

# でいあまいとらぶるめーかー ぶらす！

Peta

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

でいあ まい とらぶるめーかー ぷらす！

### 【Nコード】

N7354B

### 【作者名】

P e t a

### 【あらすじ】

見た目女の子な男の子、葵と幼馴染みの一ヶ月後。でいあまいとらぶるめーかー！の続編です。

~~~~~

目覚まし時計が耳元で鳴り響く。いつもと同じ目覚めの瞬間。

「……………寒っ!？」

起きたら凄く寒い。気付けば窓が全開で、布団も着ていない。……  
…なんで？布団は俺のすぐ横で丸まっている。

「寒い……………」

俺は隣で丸まっている布団を引っ張って被り直した。

「きゃっ!…!」

……………『きゃっ!…!』?隣を向くと、

「お、おはよ。」

夏澄がいた。

「お前はなにやってんだ!…!」

「いや、起こしにきてあげたら、あんまり気持よさそうに寝てるん

だもん。つい私も眠くなっちゃって……………てへ」

てへ じゃねえよ。また窓から来やがったな……………窓ガラスまた一枚駄目になった……………。こいつは俺の幼馴染みで、如月夏澄。起こしに来てくれるのは嬉しいが、その度に窓ガラスが破損するという、有難迷惑どころか迷惑なやつだ。

「で、何で俺の布団を被ってるんだ。」

「だって寒いんだもん。」

窓を閉める！窓を！！！！

「葵ちゃん、起きてる？入るわよ……………」

……………なんてタイミングで入って来るんだよ、母さん……………。俺と夏澄が同じベッドで寝ている。つまりそういう状況に見えなくもない訳で……………（汗）

「ごめんね〜二人共、お邪魔しちゃったかしら！ごゆっくり〜」

ドアを閉める母さん。トタトタと走る音が聞こえる。

「悠くん聞いて！葵ちゃんが夏澄ちゃんと……………」

「ちょっと待てー！！！！」

「びつくりしたわ〜！葵ちゃんったらもう」

「女の子みたいな顔してやるな、葵！」

「だから、違うって！……！」

「そうですよ！……！」

「やだ、照れなくていいのよ〜 夏澄ちゃんなら大歓迎よ！」

このアホ親共！……！相手をしていて疲れるこの二人が俺の両親、柚木悠と柚木春菜。いまだにお互いを『悠くん』『春菜ちゃん』と呼びあっていて、正直ウザい。

「……もういいよ、ちょっと出かけて来るから。」

今日は夏澄と出かける約束をしていた。

「あら、夏澄ちゃんとデート？」

……もう返事しないでおう。

「お邪魔しました。」

「行ってきます。」

「はい、行ってらっしゃい。」

夏澄と玄関をでる。

「あ、葵ちゃん。」

母さんが呼びとめた。

「なに？」

母さんは悪戯っぽく笑って言った。

「今日は帰ってこなくてもいいわよ」

「だから違ーーうー!!!!」

静かな朝の住宅街に俺の声が響いた。

「羨〜コレが良いな〜」

「無理!もつと安いのにしなさい!」

と、いうわけで俺たち二人は再び近くのアーケードにきている。あの時は赤やピンクのリボンで飾り付けられていたが、一ヶ月たった今では青や白のリボンに変わっている。……………つまるどころ、ホワイトデーだ。夏澄曰く、『ホワイトデーのお返しはバレンタインの3倍は無いといけないの!』らしく、こうして付き合わされている。……………あのチョコの3倍じゃこんな値段しねえよ……………。

「じゃあコレ!」

「ROLEXもダメです!」

夏澄のやつ……………性懲りもなくまたROLEX持ってきやがった……………!そんなん買えるか!!!!

「ケチ〜!」

「高校生にROLEXが買えるか!……………それにな、一昨日買い物

したから金が無いんだよ!」

そう、一昨日に買い物をしたので財布には3000円しか入っていない……

「え〜……葵、使えないね。」

「やかましい!」

俺の財布の中身の大半はお前によって消費されてるんだぞ? わかってんのかな…… ああ、俺の諭吉……!

「ね〜君達!」

「ん?」

なんかチャチャラした男達に話しかけられた。

「可愛いね。今ヒマ? 俺らと遊ばねえ?」

……なに、なにコレ? もしかして俺、ナンパされてる!?

「あははははっ!」

「笑うなよ!」

隣で夏澄が爆笑している。……笑うな(泣)!!!

「ねえ、どうかな?」

男の一人が胡散臭い笑顔を向ける。

「うるせえな、俺は男だ!」

ったく！こんなのにかまってるヒマはない。

「君……………男？」

「そつだよ！さつさとどっか行け！！」

全く！男をナンパすんな！！！

「そんなバレバレの嘘つかなくていいのに。」

「え？」

……………嘘じゃねえっての（泣）！！！！

「あはははは！」

夏澄のやつ、まだ笑ってやがる！！！！

「笑ってないで遊ぼうよ。」

男の一人が夏澄の肩に手をかける。……………あー、夏澄の目付きが変わった……………知らね……………。

「ちょっと……………気安く触らないでくれる？」

「痛い痛い！！！」

夏澄は男の手首をきめている。

「じりじり。」

「ぎゃああああ！！！」

うっん、瞬殺。さすが合気道部。てか、ゴキツて音したよ……

「このアマー！」

まずい！流石に夏澄でもこの人数は……！5人の男たちに囲まれる俺たち……俺も！？

「ちょっと可愛いからって調子のもってんじゃねえぞ！！」

「そうだ！銀髪だからって調子のもってんじゃねえ！」

「蒼眼だからって関係ねえんだよ！」

……あれ？矛先俺！！？なんで！！？俺なんもしてねえ！！という  
かテメエら……

「男だっつつつてんだろ！」

衝動的に一番近くの男に蹴りをかます。……あ、やべ（汗）

「テメエ……」

「いや、あの……」

「コレまずいよね……？」

「あれ、やっぱり葵じゃん。」

場の雰囲気こそぐわない明るい声が聴こえた。声の主は俺たちの間を割って俺の所まで来た。

「桐子さん……」

「よ。なにやってんの？」

長い黒髪を後ろで束ねて青縁のメガネをかけているこの人は一ヶ月前に無理矢理手伝わされたメイド喫茶の店長の桐子さん。……………空  
気読んで下さい。

「いや、なんとというか……………」

「部外者は引っ込んでてくれないかな？」

男の一人が桐子さんに言う。

「あ、ごめん。」

素直に謝った！！？

「ったく、おい！場所変えるぞ！」

男が俺の手首を掴む。

「痛っ！」

強く引っ張りすぎだったの！

「せいっ！」

右ストレートいったー！！！！俺が『痛っ』って言った瞬間に桐子さんの拳が男に炸裂した。

「うちの従業員に何してんだコラ！！！」

男たちに怒鳴る桐子さん。……………てか、俺従業員じゃないんですけ

ど？いつの間に正式採用されたんだ……………

「やべえぞ！逃げろ！」

「逃がすか！」

その後はまさに地獄画図……………逃げる男たちを殴る蹴る……………怖ええ！

「だいたいなお前らは……………」

そんなもって男たちを正座させて説教をしている。通り行く人の目が痛い……………

「葵……………」

「……………逃げるか？」

「うん……………」

俺と夏澄はこっそりとその場を後にした。

「酷い目にあった……………」

もうすっかり日が落ちて、辺りは茜色に染まっている。

「でも楽しかったね」

「……………そうか？」

夏澄は楽しそうに笑っている。……………どこが楽しかったんだ……………俺は携帯を取り出して時間を確認する。

「……………もうこんな時間か。」

俺は携帯をポケットにしまって、代わりにあるモノを取り出して手に握った。

「じゃ帰ろつか。」

「ああ。」

「あっ！」

突然夏澄が声をあげた。

「なんだよ。」

「結局バレンタインのお返し貰ってない！」

……………ちっ、気付いたか……………

「まあ、いいじゃん。」

「良くない！」

夏澄はそう言って俺を睨んだ後、そっぽを向いた。しょうがねえな

……………

「夏澄。」

「何よ。」

夏澄は不機嫌そうにこっちを向いた。………「まったく、子供か。」

「ホラよ。」

俺は手で持て遊んでいたソレを親指で弾いた。

「わっ！……！」

ソレはキーンと、澄んだ音を立てて弧を描いた。夏澄はいきなりの事に驚きながらもソレを受け取った。

「コレ………」

「これがいいって言ってただろ？」

それはシンプルなシルバーリング。

「なんだよ、不服か？」

「不服じゃないけど、お金無いんじゃない………」

「ああ。その3万のシルバーリング買ったせいでな。」

そう………「昨日に買ったモノだ。そのせいで財布には3000円しか残っていない。」

「……………」

夏澄は無言で俺を見ている。

「要らないんなら返せよ。高かったんだから……」  
「……………ううん。ありがと葵！」

そう言っつて夏澄は微笑んだ。その顔を見ていたら今日あった事とか、コイツといるとトラブルに巻き込まれるとか、そんななんどつでもよくなっちまった。こんな日々もたまには良いかもしれない……………  
……………たまには。

シンプルなシルバーリングの内側にはしっかりと彫ってもらった。

『Dear My Trouble Maker』

後日談  
…

「葵……！」

「なんだよ夏澄。」

「このリング……内側に彫ってある文字、あれどついうことかしら

「？」

「どじりじりとなまじもそのまんま……痛いっ！関節はざびりっ

て……………」

「問答無用！」

「ぞちああああ」

… END

(後書き)

どうも、3月始めに書き始めたくせに書き終わったのは3月終わりのぺたです。いやあ、ホワイトデーなんてとっくに終わってるっての！言い訳としては、インフルエンザで寝込みましたf^\_^;あ、どうでもいいですね……

というわけで、今回はとらぶるめーかーから一ヶ月後の葵と夏澄でした。今回、店長の名前が発覚です。まあ、とらぶるめーかーのときに名前考えるのがめんどくさかっただけです…… わんだふるでいずにも登場させよっかな……

評価・感想をいただけたら幸いです。それではまた！

【2007/03/29】

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7354b/>

---

でいあまいとらぶるめーかーぷらす！

2010年11月9日14時40分発行